

大阪急性期・総合医療センター 臨床評価指標《基本情報》

項目	平成26年度 数値	平成27年度 数値	平成28年度 数値	単位	定義	備考
【入 院】						
稼動病床数	768	768	768	床		実際に使用している入院ベッドの数です。
延べ患者数	261,329	267,692	257,748	人	期間内の日毎の入院患者数の合計	入院された患者さんの1年間の累計です。
1日平均入院患者数	716	731	706	人	延べ患者数/365	一日平均、何人の患者さんが入院されているかを示しています。
新入院患者数	19,129	20,175	20,010	人	期間中の新入院患者数	1年間で新規に入院された患者さんの数です。
退院患者数	19,098	20,175	20,083	人	期間中の退院患者数	1年間に退院された患者さんの数です。
年齢階層別退院患者数(別紙1)					入院時点の年齢で集計する	退院患者さんの年齢層の特徴を示しています。
主要疾患別患者数(別紙2)					原則としてICD-10の3桁分類の上位20疾患を集計(平成24年)	主にどのような疾病を扱う病院かを示しています。
疾病分類別患者数(別紙3)					ICD-10の大分類別に集計する	
病床利用率	93.2	95.2	91.9	%		平均して、どのくらいの入院病床が利用されているかを示します。
平均在院日数	13.6	13.3	12.9	日	延べ患者数/[(新入院患者数+退院患者数)÷2]	急性疾患を取り扱うのか、慢性疾患を取り扱うのか、病院の特徴を示します。
病床回転率	25.0	26.2	26.0	%	(病床利用率/100)×365/平均在院日数	空きベッドの数も考慮して計算された、入院ベッドの利用効率を示します。急性疾患あるいは慢性疾患という特徴を示します。
入院外来比率	1:1.17	1:1.17	1:1.21		延べ外来患者数/延べ入院患者数×100	入院加療を中心とする病院か、外来診療を中心とする病院かという特徴を示します。
退院患者中の褥創(Ⅱ度以上)の院内新発生率	0.35	0.21	0.30	%	NPUAP分類においてStageⅡもしくはDESIGN評価表においてd2以上の褥瘡を有する患者/新入院患者数×100	Ⅱ度:表皮・真皮を含む皮膚部分欠損 Ⅲ度:筋膜までの全層欠損 Ⅳ度:筋・骨・支持組織に至る全層欠損
退院計画立案率	92.8	94.6	77.2	%	退院療養計画書作成件数/退院患者数×100	
退院サマリー完成率	86.8	91.2	96	%	担当医が2週間以内に退院サマリーを記載した患者数/退院患者数×100	
【外 来】						
新外来患者数	27,638	29,812	29,227	人	初診料を算定した外来患者数+他科の初診患者数(入院中の外来初診を含む)	1年間に新規に外来受診を行った患者さんの数です。
延べ外来患者数	304,639	313,411	312,207	人	初診料と外来診療料を算定した延べ患者数	外来受診された患者さんの1年間の累計です。
平均通院回数	11.0	10.5	10.7	回	延べ外来患者数/新外来患者数	ひとりの患者さんが1年間に何回通院されたかを示しています。
1日平均外来患者数	1,249	1,275	1,285	人	延べ患者数/診療日数	一日平均、何人の患者さんが外来受診されているかを示します。
紹介率	66.8	65.3	66.1	%	他院からの紹介患者数/初診患者数	外来患者さんのうち、紹介されてこられる方の割合です。普段のかかりつけというような一次医療が中心か、専門的な病院かを示します。
逆紹介率	75.1	76.1	79.0	%	他院への紹介患者数/初診患者数	当センターから他病院への紹介の割合です。

大阪急性期・総合医療センター 臨床評価指標《基本情報》

項目	平成26年度 数値	平成27年度 数値	平成28年度 数値	単位	定義	備考
【死亡患者】						
死亡退院数	568	552	567	人		当センターで1年間に死亡された患者さんの数です。
粗死亡率	3.0	2.7	2.8	%	死亡患者数/退院患者数×100	当センターに入院された患者さんの死亡の割合です。高度な医療を提供する病院では重症の患者さんを取り扱うことも多いので、この数字は高くなります。
精死亡率	1.8	1.6	1.8	%	(全死亡患者数－入院後48時間以内死亡)/退院患者数×100	入院して48時間以内の死亡は、病院内での診療を反映しないことも多いので、この死亡を除いた上での死亡率です。しかしながら、上記と同様に、高度な医療を提供する病院では重症の患者さんが増え、死亡率が高くなる傾向もあるため、必ずしも病院の診療レベルは反映しません。
剖検数	23	22	4.6	件	死亡退院患者のうち病理解剖実施件数	「剖検」とは病理学的な解剖のことで、死亡した患者さんの死亡原因を詳しく調べる検査です。剖検数が多い病院は死亡原因解明のためにしっかりと取り組んでいるということも示しますが、ご遺族にとって複雑な思いを喚起させる検査でもあり、解釈には注意が必要です。
剖検率	4.0	33.0	9.2	%	剖検数/死亡退院患者数×100	
【手術】						
施設基準に掲げる手術件数(別紙4)				件	医科点数表第2表第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術の件数(平成25年1月から12月までの件数)	難易度及び診療報酬上の点数単価が高い手術について、1年間に実施した件数です。
入院手術件数	7,586	8,188	8,336	件	中央手術室利用件数	
全身麻酔件数	4,173	4,355	4,429	件		
硬膜外併用脊髄くも膜下麻酔	46	60	55	件		
硬膜外麻酔	0	1	0	件		
脊髄くも膜下麻酔	696	606	466	件		
伝達麻酔	2	2	0	件		
その他の麻酔	15	17	4	件		
【医療安全】						
医療事故発生件数	20	24	12	件	公表基準による医療事故(レベル3b以上)の年間件数 レベル3b: 濃厚な処置や治療を要した事例 レベル4: 患者に永続的な障害が残った事例 レベル5: 死亡(原疾患の自然経過によるものを除く。)	医療事故をしっかりと把握し、その年間での件数を示しています。

大阪急性期・総合医療センター 臨床評価指標《基本情報》

項目	平成26年度 数値	平成27年度 数値	平成28年度 数値	単位	定義	備考
【その他】						
研修医受入れ人数	49	51	48	人	4月1日における人数<基幹型臨床研修病院>	病院として、医師の教育に積極的に取り組んでいるかを示しています。
レジデント受入れ人数	74	75	70	人	4月1日における人数	
指導医数	47	50	44	人	4月1日における人数 ※指導医は、7年以上の臨床経験を有するものであって、プライマリケアを中心とした指導を行うことができる経験及び能力を有し、指導医養成講習会を受講した者をいう。	
医療相談件数	12,614	14,565	16,269	件	医療相談の専任者が受けた相談件数(MSWと看護師のが ん相談件数も含む)	社会財政面での患者さんの支援の体制を示しています。
医療相談件数のうち医療ソーシャルワーカーが受けた件数	12,421	14,420	16,046	件	医療相談件数－看護師が受けた件数	
セカンドオピニオン件数	37	58	40	件	新規相談件数	
患者対看護職員数	7:1	7:1	7:1		看護体制(一般病棟)	看護体制の充実度を示しています。
	10:1	10:1	10:1		看護体制(精神病棟)	
認定看護師数	17	17	20	人	日本看護協会が定める認定看護師の有資格者数 (平成27.3.31現在)	
専門看護師数	4	4	4	人	日本看護協会が定める専門看護師の有資格者数 (平成27.3.31現在)	
継続看護の実施件数	993	-	-	人	継続看護実施の実数	在宅での療養支援に積極的に取り組んでいるかを示しますが、病院の扱い疾患の特徴にも左右されます。
認定実務実習指導薬剤師	12	12	12	人	日本薬剤師研修センターが定める実務実習指導薬剤師の有資格者	各薬科大学が6年制薬学生の長期実務実習依頼施設を選定する上での指標となります。
がん専門薬剤師	1	3	3	人	日本医療薬学会が定めるがん専門薬剤師の有資格者	薬剤師としては、唯一医療法上広告が可能な専門性に関する資格です。
がん指導薬剤師	1	1	1	人	日本医療薬学会が定めるがん指導薬剤師の有資格者	日本医療薬学会認定がん専門薬剤師研修施設として認定される条件となります。
がん薬物療法認定薬剤師	1	2	2	人	日本病院薬剤師会が定めるがん薬物療法認定薬剤師の有資格者	がん医療の進歩に伴い、高度化するがん薬物療法を有効かつ安全に行うことを目的としています。
精神科薬物療法認定薬剤師	0	0	0	人	日本病院薬剤師会が定める精神科薬物療法認定薬剤師の有資格者	精神疾患患者の治療と社会復帰に貢献することを理念として、薬物療法を安全かつ適切に行うことを目的としています。
認定CRC	2	0	0	人	日本臨床薬理学会が定める認定CRC(Clinical Research Coordinator)の有資格者	製薬会社等の治験依頼者が治験実施施設を選定する上での指標となります。
研修認定薬剤師	16	-	11	人	日本薬剤師研修センターが定める研修認定薬剤師の有資格者	薬剤師がその資質を維持するために、学会や研修会等で研鑽し、その成果を客観的に認定されています。
院外処方せん率	93.7	93.7	94.1	%	院外処方箋枚数/外来処方箋枚数×100	医薬分業に積極的に取り組んでいるかを示しています。ただし、まれな疾患にしか使わない薬を多く処方される病院もあります。
診療情報の開示件数	169	190	218	件	年間の総開示件数	
治験実施件数	55	54	47	件	新規契約件数+前年度からの継続契約件数	臨床試験に積極的に取り組み、新しい治療法、新薬の開発に貢献しているかを示しています
クリニカルパス種類数	610	620	616	件	年度末における作成数	

大阪急性期・総合医療センター 臨床評価指標〈基本情報〉

項目	平成26年度 数値	平成27年度 数値	平成28年度 数値	単位	定義	備考
クリニカルパス適用率	55.0	59.5	59.6	%	クリニカルパス適用患者数/新入院患者数×100	医療の標準化に積極的に取り組んでいるかを示しています。ただし、高度な医療を提供する病院では適用が難しい場合も多くあります。
放射線治療件数	10,241	12,671	10,461	件	期間中の延べ実施件数	
CT撮影件数	33,859	38,322	40,019	件	期間中の延べ実施件数	
MRI撮影件数	12,657	12,916	16,406	件	期間中の延べ実施件数	
職員のインフルエンザワクチン接種率	90.0	88.9	93.4	%	自施設でインフルエンザワクチンを接種した職員数(分子)/院内職員対象インフルエンザワクチン接種を開始した月の初日に在職している非常勤職員を含む病院職員数(派遣職員を除く)(分母)×100	インフルエンザワクチンを接種した職員の割合を示します。
職員の健診受診率	99.6	99.7	99.9	%	事業所健診の受信者数(分子)/健診対象職員数(4月時点)(分母)×100	健康診断を受診した職員の割合を示します。

別紙1 年齢階層別退院患者数(平成28年度)

年齢階層	男	女	合計	(うち死亡患者数)
28日未満	149	142	291	0
1歳未満	209	149	358	2
10歳未満	800	601	1,401	3
20歳未満	308	246	554	1
30歳未満	247	541	788	1
40歳未満	277	893	1,170	9
50歳未満	611	717	1,328	29
60歳未満	1,031	704	1,735	46
70歳未満	2,213	1,350	3,563	95
80歳未満	3,096	2,236	5,332	182
80歳以上	1,751	1,812	3,563	186
合計	10,692	9,391	20,083	554

※年齢は退院時年齢による

別紙2 主要疾患別患者数

集計期間:2016年1月～12月退院患者

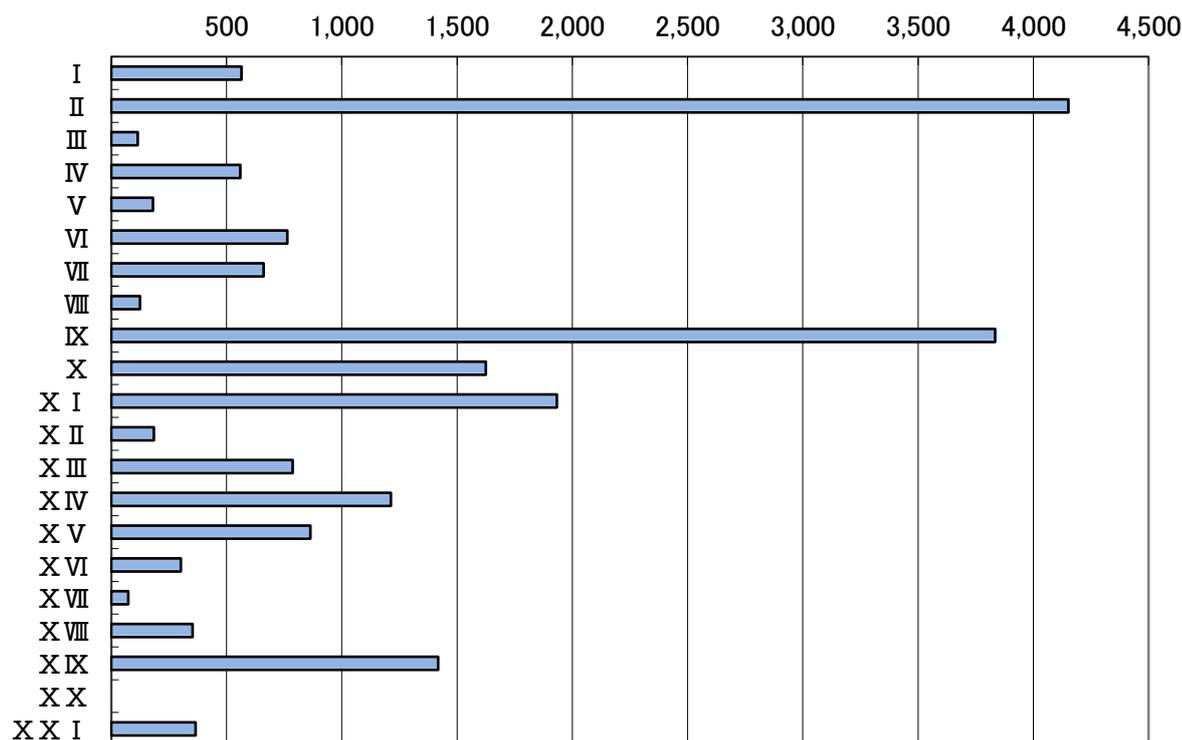
疾病順位 科 別	1 病 名 件 数	2 病 名 件 数	3 病 名 件 数	4 病 名 件 数	5 病 名 件 数
総合内科	A30-A49:その他の細菌性疾患 10	N10-N16:腎尿管間質性疾患 8	L00-L08:皮膚及び皮下組織の感染症 8	N17-N19:腎不全 7	M05-M14:炎症性多発性関節障害 7
呼吸器内科	C30-C39:呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物 474	J10-J18:インフルエンザ及び肺炎 61	C76-C80:部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物 55	J80-J84:主として間質を障害するその他の呼吸器疾患 38	J90-J94:胸膜のその他の疾患
消化器内科	C15-C26:消化器の悪性新生物 576	D10-D36:良性新生物 337	K80-K87:胆のう(嚢)、胆管及び膵の障害 280	Z00-Z13:検査及び診察のための保険サービスの利用者 198	K55-K63:腸のその他の疾患 108
糖尿病内分泌内科	E10-E14:糖尿病 309	E20-E35:その他の内分泌腺障害 15	E00-E07:甲状腺障害 5	I20-I25:虚血性心疾患 5	N17-N19:腎不全 4
免疫リウマチ科	M30-M36:全身性結合組織障害 52	M05-M14:炎症性多発性関節障害 29	E10-E14:糖尿病 24	J40-J47:慢性下気道疾患 24	J10-J18:インフルエンザ及び肺炎 23
神経内科	G20-G26:錐体外路障害及び異常運動 177	G10-G13:主に中枢神経系を障害する系統萎縮症 132	G40-G47:挿間性及び発作性障害 73	G00-G09:中枢神経系の炎症性疾患 56	A30-A49:その他の細菌性疾患 10
消化器外科	C15-C26:消化器の悪性新生物 620	K80-K87:胆のう(嚢)、胆管及び膵の障害 166	K40-K46:ヘルニア 92	E10-E14:糖尿病 88	C76-C80:部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物 46
乳腺外科	C50-C50:乳房の悪性新生物 107	D00-D09:上皮内新生物 14	Z40-Z54:特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者 13	C76-C80:部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物 4	E10-E14:糖尿病 4
小児外科	K40-K46:ヘルニア 32	K32-K38:虫垂の疾患 8	Q38-Q45:消化器系のその他の先天奇形 1	Q50-Q56:性器の先天奇形 1	N30-N39:尿路系のその他の障害
呼吸器外科	C30-C39:呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物 67	J90-J94:胸膜のその他の疾患 21	C76-C80:部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物 12	E10-E14:糖尿病 6	J85-J86:下気道の化膿性及びえく壊>死性病態 6
脳神経外科	I60-I69:脳血管疾患 365	D10-D36:良性新生物 38	S00-S09:頭部損傷 33	I70-I79:動脈、細動脈及び毛細血管の疾患 32	G40-G47:挿間性及び発作性障害 25
整形外科	M15-M19:関節症 242	M45-M49:脊椎障害 127	E10-E14:糖尿病 70	S50-S59:肘及び前腕の損傷 56	T80-T88:外科的及び内科的ケアの合併症、他に部位類されないもの 49
精神科	F20-F29:統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 43	F00-F09:症状性を含む器質性精神障害 35	F30-F39:気分[感情]障害 35	F10-F19:精神作用物質使用による精神及び行動の障害 10	F50-F59:生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 10
産婦人科	O80-O84:分娩 374	O30-O48:胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア 178	N80-N98:女性生殖器の非炎症性障害 173	D10-D36:良性新生物 154	C51-C58:女性生殖器の悪性新生物 136
小児科	J10-J18:インフルエンザ及び肺炎 316	A00-A09:腸管感染症 236	J20-J22:その他の急性下気道感染症 231	T66-T78:外因のその他及び詳細不明の作用 158	R50-R69:全身症状及び徴候 125
耳鼻咽喉・頭頸部外科	J30-J39:上気道のその他の疾患 268	C00-C14:口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物 72	H65-H75:中耳及び乳様突起の疾患 67	C73-C75:甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物 58	C30-C39:呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物 42
眼科	H25-H28:水晶体の障害 522	H30-H36:脈絡膜及び網膜の障害 40	H40-H42:緑内障 23	H43-H45:硝子体及び眼球の障害 15	T80-T88:外科的及び内科的ケアの合併症、他に部位類されないもの 8
皮膚科	L00-L08:皮膚及び皮下組織の感染症 19	E10-E14:糖尿病 19	B00-B09:皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症 7	L10-L14:水疱症 6	N17-N19:腎不全 6
泌尿器科	C60-C63:男性生殖器の悪性新生物 238	C64-C68:尿路の悪性新生物 194	N40-N51:男性生殖器の疾患 164	D00-D09:上皮内新生物 131	N10-N16:腎尿管間質性疾患 62

大阪急性期・総合医療センター 臨床評価指標

疾病順位 科 別	1 病 名 件 数	2 病 名 件 数	3 病 名 件 数	4 病 名 件 数	5 病 名 件 数
腎臓・高血圧内科	N17-N19:腎不全 332	N00-N08:糸球体疾患 143	E10-E14:糖尿病 97	E70-E90:代謝障害 27	I30-I52:その他の型の 心疾患 18
心臓内科	I20-I25:虚血性心疾患 1254	I30-I52:その他の型の 心疾患 970	I70-I79:動脈、細動脈 及び毛細血管の疾患 226	N17-N19:腎不全 123	E10-E14:糖尿病 51
心臓血管外科	I70-I79:動脈、細動脈 及び毛細血管の疾患 177	I30-I52:その他の型の 心疾患 66	I20-I25:虚血性心疾患 18	E10-E14:糖尿病 12	N17-N19:腎不全 9
形成外科	H00-H06:眼瞼、涙器及 び眼窩の障害 67	I80-I89:静脈、リンパ管 及びリンパ節の疾患、 他に分類されないもの 55	C43-C44:皮膚の黒色 腫及びその他の悪性新 生物 35	D10-D36:良性新生物 31	L80-L99:皮膚及び皮 下組織のその他の障害 29
歯科口腔外科	K00-K14:口腔、唾液腺 及び顎の疾患 454	C00-C14:口唇、口腔及 び咽頭の悪性新生物 54	S00-S09:頭部損傷 40	D10-D36:良性新生物 14	C76-C80:部位不明確、 続発部位及び部位不明 の悪性新生物 13
障がい者歯科	K00-K14:口腔、唾液腺 及び顎の疾患 39	G80-G83:脳性麻痺及 びその他の麻痺性症候 群 1			
救急診療科	I30-I52:その他の型の 心疾患 220	S00-S09:頭部損傷 143	T08-T14:部位不明体 幹もしくは(四)肢の損 傷 67	S30-S39:腹部、下背 部、腰椎及び骨盤部の 損傷 63	T36-T50:薬物、薬剤及 び生物学的製剤による 中毒 57
救急初期診療セン ター	K80-K87:胆のう(嚢)、 胆管及び膵の障害 95	J10-J18:インフルエン ザ及び肺炎 90	K55-K63:腸のその他 の疾患 89	N17-N19:腎不全 59	N10-N16:腎尿細管間 質性疾患 53
放射線治療科	C76-C80:続発部位及 び部位不明の悪性新生 物 87	C30-C39:呼吸器及び 胸腔内臓器の悪性新生 物 30	C15-C26:消化器の悪 性新生物 22	C51-C58:女性生殖器 の悪性新生物 22	C00-C14:口唇、口腔及 び咽頭の悪性新生物 8
リハビリテーション科	S10-S19:頸部損傷 20	I60-I69:脳血管疾患 11	F00-F09:症状性を含む 器質性精神障害 7	G90-G99:神経系のそ の他の障害 6	S70-S79:股関節部及 び大腿の損傷 5
血液・腫瘍内科	C81-C96:リンパ組織、 造血組織及び関連組織 の悪性新生物 32	D65-D69:凝固障害、紫 斑病及びその他の出血 性病態 11	D60-D64:無形成性貧 血及びその他の貧血	B25-B34:その他のウイ ルス疾患 1	N10-N16:腎尿細管間 質性疾患 1

別紙3 疾病分類別患者数・平均在院日数(平成28年度退院患者)

	分類	患者数	平均在院日数
I	感染症及び寄生虫症(A00-B99)	565	9.6
II	新生物(C00-D48)	4,152	14.0
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害(D50-D89)	115	15.6
IV	内分泌、栄養および代謝疾患(E00-E90)	560	13.2
V	精神および行動の障害(F00-F99)	181	32.8
VI	神経系の疾患(G00-G99)	764	19.6
VII	眼および付属器の疾患(H00-H59)	661	2.5
VIII	耳および乳様突起の疾患(H60-H95)	125	6.6
IX	循環系の疾患(I00-I99)	3,834	10.7
X	呼吸系の疾患(J00-J99)	1,625	10.1
X I	消化系の疾患(K00-K93)	1,933	10.7
X II	皮膚および皮下組織の疾患(L00-L99)	185	14.9
X III	筋骨格系および結合組織の疾患(M00-M99)	787	23.5
X IV	尿路生殖系の疾患(N00-N99)	1,213	12.6
X V	妊娠、分娩および産褥(O00-O99)	864	7.1
X VI	周産期に発生した主要病態(P00-P96)	302	10.7
X VII	先天奇形、変形、および染色体異常(Q00-Q99)	74	8.7
X VIII	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見(R00-R99)	353	7.6
X IX	損傷、中毒およびその他の外因の影響(S00-T98)	1,418	23.9
X X	傷病および死亡の外因(V01-Y98)	0	0
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用(Z00-Z99)	366	5.8



別紙4 施設基準に掲げる手術件数 (医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術)

区分1に分類される手術		手術件数
ア	頭蓋内腫瘍摘出術等	90
イ	黄斑下手術等	56
ウ	鼓室形成手術等	52
エ	肺悪性腫瘍手術等	80
オ	経皮的カテーテル心筋焼灼術	479

区分2に分類される手術		手術件数
ア	靭帯断裂形成手術等	12
イ	水頭症手術等	44
ウ	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	1
エ	尿道形成手術等	8
オ	角膜移植術	0
カ	肝切除術等	49
キ	子宮付属器悪性腫瘍手術等	18

区分3に分類される手術		手術件数
ア	上顎骨形成術等	23
イ	上顎骨悪性腫瘍手術等	34
ウ	バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	8
エ	母指化手術等	9
オ	内反足手術等	0
カ	食道切除再建術等	16
キ	同種死体腎移植術等	42

区分4に分類される手術		手術件数
腹腔鏡下手術等		642

その他の区分に分類される手術		手術件数
人工関節置換術		274
乳児外科施設基準対象手術		0
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術		83
冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む。)及び体外循環を要する手術		194
経皮的冠動脈形成術		
	急性心筋梗塞に対するもの	2
	不安定狭心症に対するもの	6
	その他のもの	36
経皮的冠動脈粥腫切除術		0
経皮的冠動脈ステント留置術		
	急性心筋梗塞に対するもの	71
	不安定狭心症に対するもの	32
	その他のもの	366

医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術

	区分1に分類される手術	適応症等	手術の種類等
ア	頭蓋内腫瘍摘出術等	脳腫瘍(下垂体腫瘍、脳・脳髄膜の転移性腫瘍)、くも膜下出血、破裂脳動脈瘤、脳内出血、硬膜外・硬膜下血腫など	<ul style="list-style-type: none"> ○頭蓋内腫瘍摘出術 ○頭蓋内腫瘍摘出術 ○経鼻的下垂体腫瘍摘出術 ○脳動脈瘤被包術 ○脳動脈瘤流入血管クリッピング ○脳動脈瘤頸部クリッピング ○広範囲頭蓋底腫瘍切除・再建術 ○機能的定位脳手術 ○顕微鏡使用によるてんかん手術 ○脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。) ○脊髄刺激装置植込術 ○脳神経手術(開頭して行うもの)
イ	黄斑下手術等	黄斑変性症、裂孔原性網膜剥離、糖尿病性増殖性網膜症、高血圧性網膜症、網膜変性疾患など	<ul style="list-style-type: none"> ○黄斑下手術 ○硝子体茎頭微鏡下離断術 ○増殖性硝子体網膜症手術 ○眼窩内腫瘍摘出術(表在性) ○眼窩内腫瘍摘出術(深在性) ○眼窩悪性腫瘍手術 ○眼窩内異物除去術(表在性) ○眼窩内異物除去術(深在性) ○眼筋移動術 ○毛様体腫瘍切除術 ○脈絡膜腫瘍切除術
ウ	鼓室形成手術等	中耳炎、急性・慢性副鼻腔炎、扁桃の慢性炎症性疾患、扁桃周囲腫瘍、感音難聴、突発性難聴など	<ul style="list-style-type: none"> ○鼓室形成手術 ○内耳窓閉鎖術 ○経耳的聴神経腫瘍摘出術 ○経迷路的内耳道開放術
エ	肺悪性腫瘍手術等	肺の悪性腫瘍、膿胸など	<ul style="list-style-type: none"> ○肺悪性腫瘍手術 ○胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 ○肺切除術 ○胸壁悪性腫瘍摘出術 ○膿胸膜、胸膜胼胝切除術(通常のもの/胸腔鏡下のもの) ○胸膜外肺剥皮術 ○胸腔鏡下膿胸腔搔爬術 ○膿胸腔有茎筋肉弁充填術 ○膿胸腔有茎大網充填術 ○胸郭形成手術(膿胸手術の場合) ○気管支形成手術
オ	経皮的カテーテル心筋焼灼術	WPW症候群や心房粗細動などの不整脈	<ul style="list-style-type: none"> ○経皮的カテーテル心筋焼灼術 <p>WPW症候群(特有の心電図所見を示し頻脈発作を起こす)などの不整脈の原因となっている部分(副伝導路など)に対して、経皮的(皮膚から管を直接入れる)に挿入した電極付きのカテーテル(細い管)を通し、高周波通電によって原因部位を破壊する治療。</p> <p>血管カテーテル治療は、主に手術の前準備や手術に代替として行なわれる。</p> <p>脚のつけ根の動脈から、カテーテルを目的とする血管まで挿入し、造影剤を注入しながらエックス線撮影が行なわれる。</p>

	区分2に分類される手術	適応症等	手術の種類等
ア	靭帯断裂形成手術等	膝関節靭帯損傷、肩、膝以外の関節捻挫、関節内軟骨損傷、変形性股関節・膝関節症など	<ul style="list-style-type: none"> ○靭帯断裂形成手術(関節鏡下によるものを含む) ○観血的関節授動術 ○骨悪性腫瘍手術 ○脊椎、骨盤悪性腫瘍手術
イ	水頭症手術等	水頭症、くも膜下出血、破裂脳動脈瘤、未破裂脳動脈瘤	<ul style="list-style-type: none"> ○水頭症手術 ○髄液シャント抜去術 ○脳血管内手術 ○経皮的脳血管形成術
ウ	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	頭頸部の悪性腫瘍、鼻涙管閉塞など	<ul style="list-style-type: none"> ○涙嚢鼻腔吻合術 ○鼻副鼻腔悪性腫瘍手術 ○上咽頭悪性腫瘍手術
エ	尿道形成手術等	尿失禁、尿道奇形・外傷、腎・尿路系・男性生殖器の腫瘍など	<ul style="list-style-type: none"> ○尿道下裂形成手術 ○陰茎形成術 ○前立腺悪性腫瘍手術 ○尿道上裂形成手術 ○尿道形成手術 ○経皮的尿路結石除去術 ○経皮的腎盂腫瘍切除術 ○膀胱単純摘除術 ○膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術を除く)
オ	角膜移植術	角膜の障害	<ul style="list-style-type: none"> ○角膜移植術 <p>病変部の状態により、角膜の表層または全層を移植する手術。 人工の角膜はないため、感染症がない死体の透明な角膜を移植する。死後6時間以内の角膜がよいとされている。 局所麻酔のあとに、顕微鏡下で移植が行なわれる。</p>
カ	肝切除術等	肝臓の腫瘍、胆道系・胆嚢の腫瘍、胆石、胆嚢炎、胆管炎、先天性胆道閉鎖症、膵臓の腫瘍など	<ul style="list-style-type: none"> ○肝切除術 ○腹腔鏡下肝切除術 ○膵体尾部腫瘍切除術 ○腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術 ○膵頭部腫瘍切除術 ○骨盤内臓全摘術 ○胆管悪性腫瘍手術 ○肝門部胆管悪性腫瘍手術 ○副腎悪性腫瘍手術
キ	子宮附属器悪性腫瘍手術等	女性生殖器系の悪性腫瘍、子宮筋腫、子宮頸管ポリープなど	<ul style="list-style-type: none"> ○子宮附属器悪性腫瘍手術(両側) ○卵管鏡下卵管形成術 ○腔壁悪性腫瘍手術 ○造腔術 ○腔閉鎖症術(拡張器利用によるものを除く。) ○女子外性器悪性腫瘍手術 ○子宮鏡下子宮内膜焼灼術

	区分3に分類される手術	適応症等	手術の種類等
ア	上顎骨形成術等		<ul style="list-style-type: none"> ○顔面神経麻痺形成手術 ○上顎骨形成術 ○頬骨変形治癒骨折矯正術 ○顔面多発骨折観血的手術
イ	上顎骨悪性腫瘍手術等	耳下腺、上顎骨、口腔咽頭、舌、顔面などの悪性腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> ○耳下腺悪性腫瘍手術 ○上顎骨悪性腫瘍手術 ○頭、下咽頭悪性腫瘍手術 ○舌悪性腫瘍手術 ○口腔、顎、顔面悪性腫瘍切除術
ウ	バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	甲状腺機能障害	<ul style="list-style-type: none"> ○バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉) <p>内科的治療に反応しない、または甲状腺機能亢進症で出産を希望する場合に行われる手術。術前にヨード剤を使用し、血流減少をさせてから摘出術を行う。両側の甲状腺を5g程を残す。甲状腺ホルモン分泌量が減り症状が改善する。アイソトープ療法で甲状腺に取り込んで、甲状腺ホルモン産生機能を廃絶させることも行うが、甲状腺機能低下症を引き起こすため、ホルモン療法が必要となる。</p>
エ	母指化手術等	母指切断	<ul style="list-style-type: none"> ○自家遊離複合組織移植術(顕微鏡下血管柄付きのもの) ○神経血管柄付植皮術(手・足) ○母指化手術 ○指移植手術
オ	内反足手術等	内反足、先天性気管狭窄症	<ul style="list-style-type: none"> ○内反足手術 ○先天性気管狭窄症手術
カ	食道切除再建術等	食道の腫瘍、食道炎、食道潰瘍、胃食道逆流症、食道狭窄、先天性食道閉塞症	<ul style="list-style-type: none"> ○食道切除再建術 ○食道腫瘍摘出術(開胸又は開腹手術によるもの、腹腔鏡下・縦隔鏡下又は胸腔鏡下によるもの) ○食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの) ○食道悪性腫瘍手術(消化管再建手術を併施するもの) ○食道切除後2次的再建術 ○食道裂孔ヘルニア手術 ○腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術
キ	同種腎移植術等	急性・慢性腎不全	<ul style="list-style-type: none"> ○移植用腎採取術(生体) ○腹腔鏡下移植用腎採取術(生体) ○同種死体腎移植術 ○生体腎移植術

その他の区分に分類される手術	適応症等	手術の種類等
人工関節置換術	膠原病(関節リウマチ、全身性エリテマトーデスとその合併症)、変形性股関節・膝関節症、変形性肩関節・肘関節・手関節・足関節症など	変形や疼痛が強度な場合に全置換を行なう手術。 人工関節置換は、骨頭側とそれを受ける関節窩を人工関節に交換する手術。
乳児外科施設基準対象手術	先天性食道閉鎖症 胸腹裂孔ヘルニア 先天性心疾患 先天性胆道閉鎖症 鎖肛 仙尾部奇形腫 副腎悪性腫瘍 腎(尿管)悪性腫瘍	【1歳未満の乳児に対する外科手術】 ○先天性食道閉鎖症根治手術 ○胸腔鏡下先天性食道閉鎖症根治手術 ○胸腹裂孔ヘルニア手術 ○単心室症又は三尖弁閉鎖症手術(心室中隔造成術) ○大血管転位症手術 ○左心低形成症候群手術(ノルウッド手術) ○先天性胆道閉鎖症手術 ○肝切除術 ○鎖肛手術(仙骨会陰式及び腹会陰式並びに腹仙骨式) ○仙尾部奇形腫手術 ○副腎悪性腫瘍手術 ○腎(尿管)悪性腫瘍手術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	不整脈(頻脈性、徐脈性)	○ペースメーカー移植術 ○ペースメーカー交換術(電池交換を含む)
冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む。)及び体外循環を要する手術	虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)	自家大伏在静脈片、腕にある橈骨動脈、下腹壁動脈を用いて、大動脈冠動脈にバイパスを作製して新しい血液の通り道をつくる手術。 内胸動脈、胃大網動脈を直接、冠動脈にバイパス手術を行なうこともある。 人工心肺下で行なう場合と心拍動下で行なう場合がある。
経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術	虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)	○経皮的冠動脈形成術 ○経皮的冠動脈粥腫切除術 ○経皮的冠動脈ステント留置術